

Educo

地球時代の教育情報誌 エデュコ

No.22

2010年 春

2 巻頭インタビュー

登山家

田部井 淳子さん

4 知っておきたい教育 NOW

新入学児童のスムーズな適応を願って
菅原 弘一

中1ギャップを起こさないために
有村 久春

8 世界きょういく見聞録

フィンランドの教育制度と学校文化
伊藤 雄一

10 地球となかよしトピックス

ひとり一鉢 自分だけの盆栽
さいたま市立植竹小学校

12 インフォメーション 北から南から

14 地球となかよしゼミナール

学校における省エネルギー
宮田 進

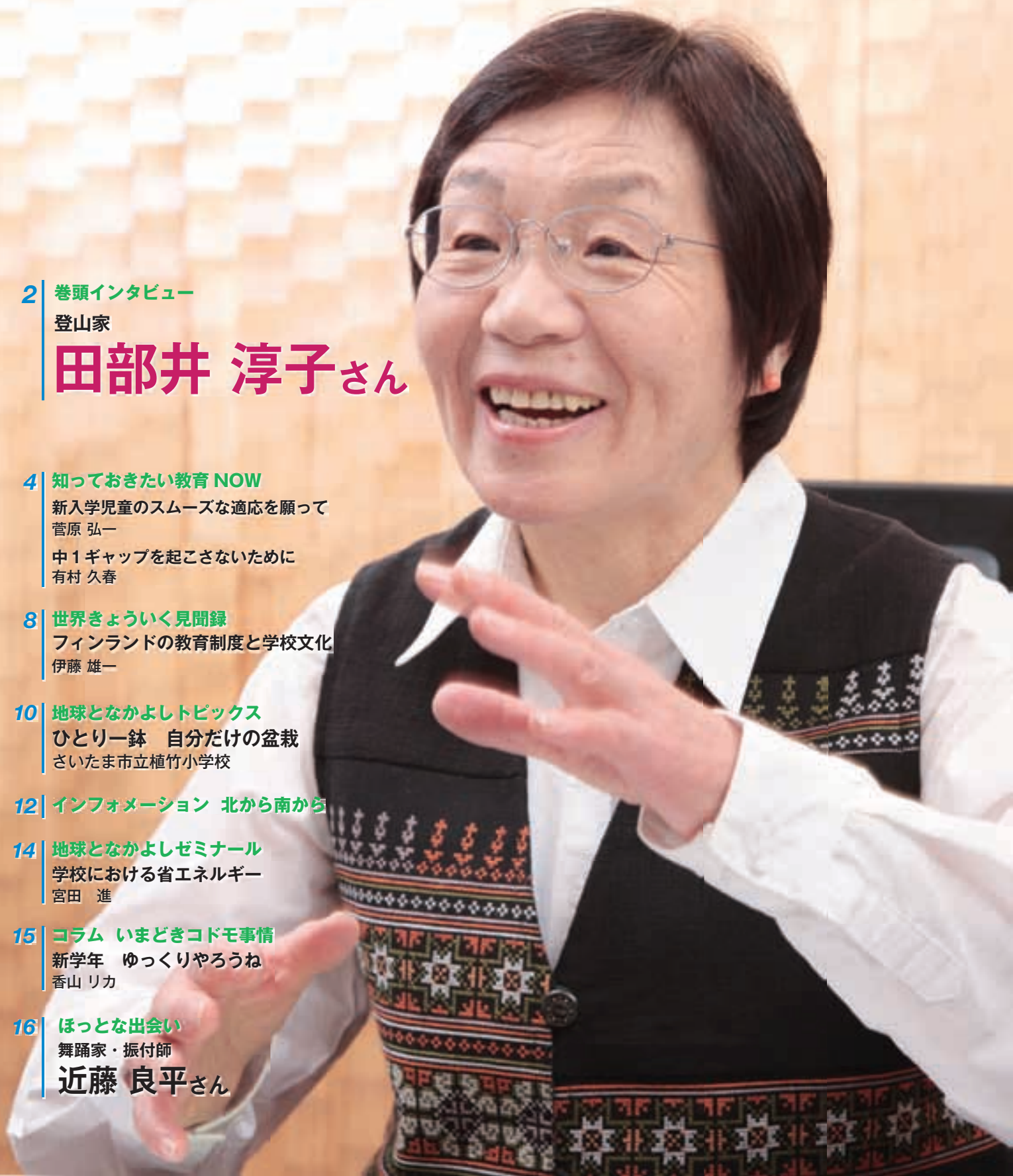
15 コラム いまどきコドモ事情

新学年 ゆっくりやろうね
香山 リカ

16 ほっとな出会い

舞踊家・振付師

近藤 良平さん





登山家
田部井 淳子さん
たべい じゅんこ

困ったときにどうしたら
解決するかを考える能力が、
一番大切だと思うんです。

世界最高峰のエベレストなど多くの
山に登頂されていますが、山登りを
好きになっただけは？

小学校4年生のとき、担任の先生
が山が好きで、クラスの子たちと、
栃木県那須の茶臼岳と朝日岳に登っ
たんです。登ってみると、山は緑だ
と思っていたのに、砂と岩と硫黄の、
全然緑のないところがある。家の近
所の川は水が流れているのに、ここ
はお湯が流れている。学校の黒板や
教卓で習ったものではない、自分の
肌で感じ、自分の目で見た、今まで
知らなかった世界。これが強烈な驚

きでした。この、知らない世界を知
る喜びが、大人になってからの、た
くさんの山に登ってみたいという思
いの原点でした。

そして、先生が「山はヨーイドン
で登るのではない、ゆっくりでもい
いんだよ」と言ってくれたことも大
きかったんです。私は体が弱くて体
育が苦手だったものですから、運動
会がすごく嫌な行事だったんです。
白線の前に並んで、一斉にヨーイド
ンと行くというのがすごいプレッ
シャーだったんですが、山登りはそ
ういうのが全くなく、自分のペース
で歩けば、みんなと一緒に同じよう



▲モンゴル最高峰フィティン峰頂上にて

に頂上に立てるんです。

でも、山登りは、どんなにつらく
ても、選手交代はないんですよ。
自分が行かない限り、頂上には立て
ない。自分が歩いてきたので今ここ
に立っているという達成感。これは
すごいものがあるんです。

「体験することをとんでも大事に思っ
ていらっしゃるそうですね。」

子どもさんたちを毎年山に連れて
いく行事があったんですが、一人、
ものすごく反抗的な子がいたんで
す。山なんか行かない、準備体操も
いやだ、歩くのもいやだとしゃがみ

こむ。私はもう、とにかく行くのよ！
と引きずるみたいにして連れていっ
たんです。はたから見たら驚かれた
かも（笑）。何とか上のほうまで登っ
ていくうちに、明らかに顔つきが変
わって、文句が少なくなってきました。
湖が見えて、雲が自分より下にな
ったらどんどん歩きだして、頂上
に着いたらやったやったと大騒ぎで
した。美しい風景を見た感動と、自
分の足で頂上に立ったという喜び。
下山したらもう別人でした。自然が、
彼のためこんでいたエネルギーを一
気に出させたんでしょうね。

自分の登山の原点が実体験でした
し、その後、たくさん山の山にいろい
ろな人と登る中で、何をおいても体
感、体験が大事だと確信するようにな
りました。パソコンに向かって
ネットでいろいろ勉強するよりも、
自分の体を使ってその場に行くのが
一番だと、これは一貫して言い続け
ています。自分自身の足で歩き、自
分の目で美しい風景を見る。それが、
たくさんさんのことを考える原点にな
ると思うんです。自然の中には、理科
や社会科の材料も、絵や文学の材料
も、たくさんあります。自分はこう
いうものが好きだ、と感じられるも

嫌だろ？が何だろ？、とにかく山に親も子どもも連れて行っちゃえ、そうしないと始まらないというのが、私の考え方なんです（笑）。

山登りでは、困ったことに会うことも多いと思います。

例えば、山登りには周到な準備が必要ですが、人間ですから、忘れ物
はよくあります。そのときに、あんな
の担当なのに何で持ってこない
の、なんて言っていたら、雰囲気
がすごく暗くなってしまうんです。失
敗したと思っている人が一番、参っ

たなあと思ってるんですから。責めるのは楽ですよ。でも、責めたつて絶対解決しないでしょう。やつちやつたものはやつちやつたわけですから、じゃどうするか考えないと、前には進んでいかない。

困ったときにどうするかと考えられる人が、一緒にいて楽しい人ですよ。責めたり悔やんだりするより、どう解決するか考えることが、何より大事な要素だと思います。「なんとか解決しよう」と考えられる能力が、一番大切なんじゃないかなと思います。

あと、大切にしているのは、ミ

テイニングで、同じテーブルについて

ときにしっかりと意見を言つてね、ということですね。私はこう思う、ということをきちんと伝える。そして、後から、こう決まつたけど、私はほんとにこう思ったのに、なんてこぼすのはなしよ、と。それはもう意見

ではないですよね。そのかわり、意見を出し合う場では、言いにくいことでも遠慮せずに言ってもらうし、自分も言う。自分の意思とは異なる方向に決まったら、それはもうがまんしてついていかなきゃだめ。山登りでは、みんなで決めたことを守っていかないと、命にかかりますからね。

自然を守る活動にも積極的に取り組んでいらっします。

これまでも清掃登山や、青少年の環境体験登山を行ってきました。ただ残念ながら、最近の子どもたちは結構出不精なんです。

親が体験していないと、子どもも体験する機会がどうしても少なくなりますし、外に出る気にもなりにくいですね。そこで2009年の春に、「MJリンク」という同好会を立ち上げました。Mはマウンテン、



PROFILE

田部井 淳子

1939年福島県生まれ。昭和女子大学卒業。
1975年、エベレスト日本女子登山隊副隊長として、世界最高峰エベレストに女性世界初の登頂に成功。1992年には女性で世界初の7大陸最高峰登頂者となる。現在、58か国の最高峰・最高地点を登頂。2000年、九州大学大学院比較社会文化研究科修士課程修了（研究テーマはエベレストのゴミ問題）。

いつでも山を

小学館 2008 年発行 1260 円



著書
紹介

●「MJリンク」

自然に親みたい20〜40代女性のためのネットワーク。

<http://mjlink.blog.so-net.ne.jp/>

● 田部井淳子さんオフィシャルサイト
<http://www.junko-tabei.jp/>

Jは女性。20代から40代の、これから子どもをもつ人、子育てをしている人に、山に行きませんかという架け橋をつくりたかったです。お母さんたちが「山っていいなあ」と思ったら、絶対自分の子どもを山に連れていくように思うんです。

野や山を自分の足で踏みしめて、美しい自然を見て、ああ、こういう風景をずっと残したいなという気持ちが生かされたい。そういう実感を次の世代につないでいきたいと思っています。

🍷

新入学生への対応

新入学児童の スムーズな適応を願って

—「仙台市スタートカリキュラム」の作成と実施—

仙台市教育委員会 確かな学力育成室
指導主事
菅原 弘一



幼児教育から学校教育への「段差」の要因

学校を訪問すると、多くの教職員から、以前と比べて子どもたちの様子が「変化」しているという声を聞く。特に、対人関係の面での変化が顕著で、自分の思いを友達にうまく伝えることができずに些細なことでもけんかを始めたり、友達との関係をうまくつくれずに気持ちが悪くなり不安定になったりする子が増えている。問題を難しくしている根底には、子どもを取り巻く、家庭や地域社会全体の変化がある。社会体験の不足などから、「生きる力」の素

地ともいえる、幼いころから身に付けておくべき「知恵」や「態度」のようなものが十分に身に付かないまま成長してしまうのである。それが、幼児教育から学校教育への「段差」をこれまで以上に大きくしてしまう要因となっていると考えられる。

『小学校学習指導要領解説 生活編』（文部科学省）において、「第1学年入学当初のカリキュラムをスタートカリキュラムとして改善すること」や「幼児教育や小学校教育との具体的な連携」の必要性が明確に示されたのも、このような状況が背景にある。

スムーズな適応を支援する

「スタートカリキュラム」の作成

仙台市では、小学校入学時の適応をスムーズにし、学習習慣や生活習慣の土台をしっかりとつくるため、すべての学校で「スタートカリキュラム」を作成し、実施することが必要であると考えている。

昨年6月には、「仙台市スタートカリキュラム検討委員会」を設置し、先行実施してきた学校の実践例や幼児教育の関係者らの意見を参考にしながら検討を進めてきた。この2月には、『仙台市スタートカリキュラム作成

● 図1 スタートカリキュラム作成の手順

前提となること ● スタートカリキュラム作成に関する基本的事項
● スタートカリキュラム作成のための組織と日程

ステップ1 スタートカリキュラム作成のための事前の準備をする

- 1 現在実施中の指導計画を検討する。
- 2 入学してくる児童の心身の発達段階や特性を把握する。

ステップ2 入学当初に子供たちに身に付けさせたい力を話し合う

- 1 入学してくる児童の実態を想定する。
- 2 入学当初に身に付けさせたい力や学習習慣、生活習慣を具体的に想定する。

- こんな力を付けさせたい。
- こんなことができるようにしたい。
- 基本的学習習慣の面から…話を聞くなど
- 基本的生活習慣の面から…45分間座っているなど
- 新教育環境への適応の面から…トイレを使うなど

ステップ3 どんな力、どんな習慣を、いつまでに身に付けさせるか整理する

- 1 ステップ2で想定した力や習慣についての優先度を明確にし、入学当初に重点的に身に付けたいものを絞り込む。
- 2 身に付けさせたい力や習慣を定着させるまでの時期を明確にして、見通しをもつ。

ステップ4 指導内容とその配列を決め、カリキュラムを作成する

- 1 1か月分の学校行事を日程表に位置付ける。
- 2 週ごとのねらい（テーマ）を設定する。
- 3 1日の活動（学習）の流れを考える。
- 4 各教科等の指導内容相互の関連、総合的・関連的な指導に配慮し、授業時数を配当する。

ステップ5 スタートカリキュラムを実践する

ねらいの達成に向け、個々の指導内容を確実に身に付けさせるための工夫をし、授業を実施する。

の指針』をまとめ、主に、カリキュラムの作成手順とそのポイントを示した。

手順は、図1のように5つのステップで示し、特に、家庭や幼児教育との連携を図った実態把握、入学当初に身に付けたい力の具体化、目標実現のための手立ての明確化を強調している。

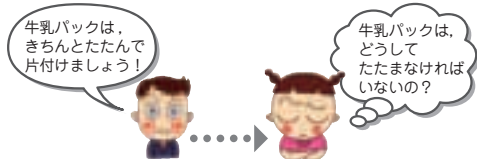
以下は、先行事例から抽出したカリキュラム改善のポイントの一部である。「各校共通に取り組んでほしい実践上の工夫」として『指針』で示している。

(1) 新しい環境に徐々に適応させる

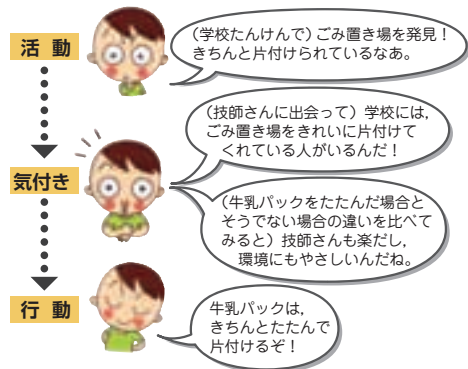
最初の週は、「楽しく安心して遊びや生活ができる。」「学校の施設の様子が分かる。」

● 図2 気付きから行動の必然性へ

学級活動のみで



生活科と学級活動を組み合わせで



など、教室配置や校庭、遊具など学校の物理的な環境への適応が図れるようにする。次のステップで、「友達」「先生」など、人的な環境の変化への適応、さらに次のステップとして、「対象への気付き」から「自分自身への気付き」へと至るようにする。このようにして、徐々に「学校」という新しい環境に適応できるように、指導内容の配列を工夫する必要がある。

(2)生活科を軸とした合科的・関連的指導の工夫

子どもたちに身に付けさせたい力や習慣、学校のルールなどを、入学当初の子どもたちに一方的に教え込もうとしても、なかなか難しいものがある。そこで、遊びの要素を含んだ活動中心の教科である「生活科」を軸にすることで、児童の気付きから行動の必然性を生み出すことができると考える。

例えば、「牛乳パックは、きちんとたたん

で片付けましょう。」と言ってもなかなか定着しないが、図2のように生活科の学習で生まれた気付きを、学級活動と組み合わせさせて生かすことで、「きちんとたたんで片付ける。」という行動の必然が生まれるのである。

「学習指導要領」の趣旨を生かし、生活科と関連する教科等の学習を有機的に結びつけながら、学校生活のルールやマナー、友達や先生とのかわりなど、小学校生活への関心を高めることができるようなカリキュラムの工夫が大切である。

(3)協力体制の充実を図る

入学当初の1校時目の学習は、学年合同で行うなど、学年全体で見守る体制をつくる。児童に接する教職員の認識や対応が統一されることによって、児童にとつての安心感を生み出すことになる。毎日決まった場所で学年のみんなで活動することは、少人数の幼稚園や保育所から入学してきた子どもの友達づくりに対する不安を解消させることにもつながる。

また、最近では、トイレの使い方、着替え、給食の配



小1生活・学習サポーターによる支援

膳や下膳など、学校生活をスムーズに送るために必要な行動ができない子どもが増えている。仙台市では、落ち着いて学習に取り組める環境をつくるため、保護者（第1学年の保護者を除く）や地域の方が教室に入って担任をサポートする「小1生活・学習サポーター」を配置できるようにしている。この制度の活用を促し、一人一人の児童に配慮した、きめ細かい指導を実現したい。

スタートカリキュラムの効果を実践的に探る

22年度には、「仙台市スタートカリキュラム」の効果検証を行うモニター校20校で、具体的な取り組みが始まる。1時間1時間の具体的な授業について検討し、望ましいカリキュラムの在り方を実践を通して探っていききたい。

また、幼児教育との連携を具体的に進めるため、21年度は、市内の公私立幼稚園、保育所・保育園から小学校に引き継がれる文書の様式を統一した。22年度には、幼稚園教諭と小学校教諭の合同研修会を開催して相互理解を深める機会を設ける予定である。このような取り組みを通して、秋には、改訂版の『指針』を再び全校に示せるようにする。

入学したばかりの1年生が、「明日も学校に行きたいな。」「学校って楽しいなあ！」そんな気持ちをふくらませることができるよう、今後もスタートカリキュラムの検討、改善を図っていききたい。🍎

新入学生への対応

中1ギャップを 起こさないために



帝京科学大学教授
(千住キャンパス)
有村 久春

中1ギャップとは？

中1ギャップとは、子どもが小学生から中学1年生になったとき、学習や生活の変化になじめずに問題行動等が増加する状況をいう。

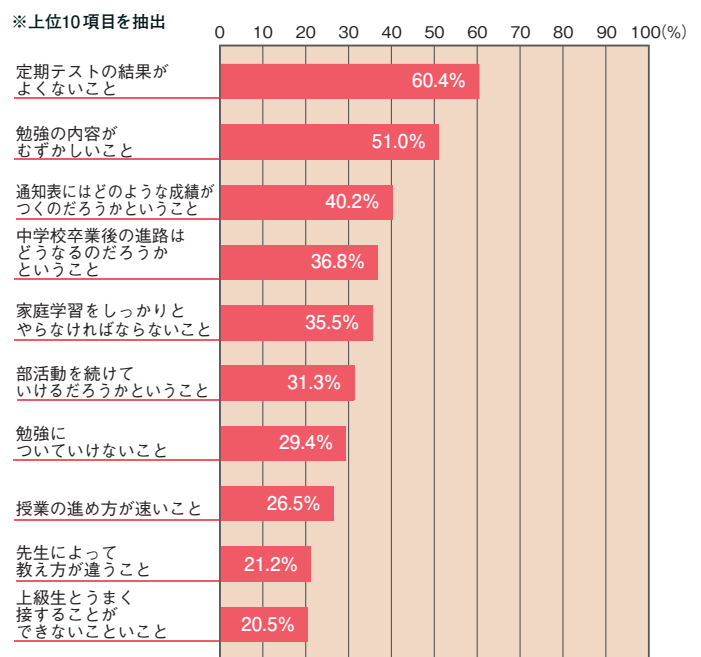
文部科学省が毎年発表している児童生徒の問題行動等の調査結果(平成20年度・2009年11月30日発表)をみると、暴力行為の加害児童生徒数が小6の約4倍、同様にいじめの認知件数が約2倍、不登校の児童生徒数が約3倍になっている(表1)。近接の学年に比べて、注目しなければならない数値である。この事態は、今日的な特徴とは言い難い。平成11年度の暴力行為の状況を見ると、小6で878件、中1で5418件である(同省

●表1 学年別の問題行動発生状況

	小5	小6	中1	中2
暴力行為	1,419	2,607	11,082 → (約4倍)	16,313
いじめ	8,050	8,690	17,516 → (約2倍)	13,069
不登校	5,712	7,727	23,149 → (約3倍)	38,577

*文科省の調査データの抜粋

●表2 入学3カ月後の不安の内容



東京都教育庁

のデータ)。そのギャップは約6倍である。むしろ今日よりも顕著であろう。ここでもう一つ気になることは、小・中間のギャップとともに「経年ギャップ」である。平成11年度と平成20年度との比較で、小6は約3倍に、中1は約2倍になっている。この間の少子化進行を視野に入れると、各学年で総体的に暴力行為が増加している。慢性的ギャップといえよう。

また、東京都教育委員会が発表した「小1問題・中1ギャップの予防・解決のための教員加配について」(2009年12月17日)の文書によると、不安を抱える中学1年生の割合は、入学前で80・8%、入学3カ月後で49・7%であるとしている。中学入学前後のきめ

細かな指導が如何に重要であるかを物語っている(表2)。

このような事態は、中学生になることへの不安や不応の表出であると考えられる。例えば、①仲のよかった友人とクラスが別々になった、②いままで上級生だったが下級生になつてしまう、③新しい学級の雰囲気慣れない、④授業の進み具合が心配、⑤部活動の先輩が怖い、⑥宿題が多くなったなど。

一方、ギャップを一つの節目とも考えたい。中学生になることは、子ども個々にとって新しさへのチャレンジであり、夢を実現する機会である。中学への進学を成長の起爆剤と考えたい。小学校では叶わなかったことを可能

にしたいとする再生欲求が満たされる。一般論としても、進級や進学、組織編成などによって生活環境が変化することは個々の生き方を活性化させる。このステップアップを子ども自身がよき成長体験として受け容れられるよう援助する教育活動に取り組みたい。

ギャップ解消のために

(1)「こころの戸惑い」を聴く

カウンセリング感覚のある指導援助に徹することである。入学当初にある不安や悩み(サイン)に気付くかわりを工夫したい。

根気のいる課題であるが、まずは生徒の個々の自尊感情に寄り添い、その言動を受容する。具体的には、生徒の個々の話をよく聴くことに尽きる。「なるほど、そうなんだね」「君の考えを教えてほしい」などと、ありのままに耳を傾けることである。授業への不安も少なくない。「中学校の勉強についていけないのか」「自分の意見を言うのが怖い」など。丁寧なわかりやすい授業に心掛けたい。

また、早期に学級教師との個別面談の機会を設けたい。環境の変化等に伴う「こころの戸惑い」を理解する必要がある。ここでのゆったりした教師の応対と落ち着いた学校環境が、生徒の安心感をはぐくむ。中学生になったのだから早く教え込まなくてはとする「あせりの指導」は禁物である。かえって生徒をストレスフルにし、ギャップも拡大する。小

学生時にいじめや暴力等の被害・加害体験のある子は、教師の言動をナーバスに受け止め、自らの心身の動きを鈍らせることがある。

(2)「学級開き」を工夫する

4月当初の教室環境づくりを工夫したい。生徒たちは、どんな気持ちで学級にいたらよいか、どの級友に声を掛けようか、学級教師はどんな人かなどにすべての精神を傾注する。

このときの教師こそ、明るい笑顔で接し、自らの中学生の経験を語り、得意技を披露するなど積極的に自己開示したい。また、生徒同士の出会いの体験を重視し、グループエンカウンター演習などを実施する。2人組で自己紹介をする、4人組で小学校の思い出を語り合う、中学生生活の希望や不安を話し合うなどのエクササイズを行う。椅子取りゲームやクイズ大会など簡単な集会を計画することもある。対人関係の不安解消に向けた実践的な取り組みが欠かせない。同じ学級に所属する者同士として、出会いの場をつくり、友達づくりや集団形成の契機としたい。

(3)上級生と学び合う

中1の生徒にとって気がかりなことが、上級生(先輩)の存在である。「目を付けられたらどうしよう」「どんなあいさつをしたらよいか」などの不安な気持ちと、「分らないことを聞いてみたい」という前向きな気持ちが錯綜する。とりわけ、生徒たちが関心を寄せる部活動での上級生の存在が気になろう。

これらの意味から、新入生と上級生が交流する場を設ける。例えば、新入生ガイダンスを教師だけで執り行わず、生徒会の活動とタイアップする。具体的には、中学校生活の過ごし方、日々の勉強の仕方、部活動の選び方、期末テスト対策、先生方との接し方、学校施設の使い方などについては生徒会の代表や上級生たちがその説明役を担う。教師らが話すよりも効果的であることは間違いない。教師側は、教育目標や学年目標などの解説等に留める。また、1年生の各学級で上級生と学校生活の在り方などを小グループで話し合う場を設ける。生徒同士の交流がみられ、新入生の精神的負担感の解消になる。上級生にもやさしい気持ちや「お世話感」が醸し出される。

これら解消策の背景に、小・中の各学校内での共通理解と学校間の相互信頼の実現が不可欠である。教師間・学校間のギャップの解消が、中1ギャップ解消の鍵である。

近年多くの自治体で、小中一貫教育の制度改革が進められている。不登校やいじめの解消に効果をもたらしているケースもある。しかし、カリキュラムの一貫性や学校間の体制づくりが優先され、子どもの心身の成長や居場所の安定の一貫性が置き去りになっている現状もみられる。制度的な組織設計と併行して、保護者及び教員の意識改革と実効性のある援助態勢の整備も不可欠の要件である。



● AURINKOLAHDEN のホール（食堂、イベントホールの多目的な空間）

カラフルな外壁やガラス張りで、校舎内は暖かい感じを与えてくれました。図書館やホールなど、学校とは思えないようなカッコ良さでした。

また、すべての教室にはパソコン、プロジェクタ、OHC（実物投影機）が設置されていました。VIKKI 教師教育学校では、パソコンやネットワークの維持管理を専門のスタッフが常駐して管理していました。日本で各学校に配置が話題になっていた電子黒板もごく普通に活用されていました。電子黒板用のソフトは、教科書を採択した時点で、無償提供されるそうです。

発見② 教師の裁量や地位の違い

VIKKI 教師教育学校の6年生の先生に教室で教科書を見せてもらいました。算数の教科書と指導書を見ましたが、レイアウトの大きな違いはありませんでした。お話を伺っていると、この先生は、理科の教科書の執筆者でした。さらに、教科書は各教師の裁量によって選択できることを直接伺いました。他のクラスとの差があると問題はないのかなと考えてしまうのは日本の教師の発想だということが、その後の先生の行動を見てわかりました。

フィンランドの教師は授業を行うことに専念していました。給食は食堂で時間に差をつけて交代でとるのですが、この間、給食指導はしません。同僚の教師と談笑しながら、ゆったりと過ごしています。清掃指導や清掃ありません。授業が終わったら、すぐに下校です。清掃は、清掃員の方が行っていました。

先生の多くは、自分の荷物を教室に持ってきていました。教室が仕事場のようでした。職員室はソファや厨房があり、くつろぎの空間でした。授業が終わったら退勤していました。フィンランドでは教師



● 教室内の一角で個別指導をする姿が数多く見られました。

は憧れの職業であり、大変な難関をくぐり、教師になります。子どもと同様、教師も自立し、一人一人が信頼され、ゆとりをもって仕事をしていると感じました。

発見③ 個に応じた指導が徹底

VIKKI 教師教育学校では教室の一角にはテーブルが置かれており、このスペースを活用して指導がされていました。個別指導の先生が指導をしていました。AURINKOLAHDEN 総合学校では、個別指導の教室がありました。専属の先生がいて、集団の中では落ち着いて学習できない子どもの指導をプログラム化していました。

積極的に個別指導をすることは、どの子どもに対しても個に応じた指導をするフィンランドでは違和感なく受け入れられるのだと感じました。

フィンランドの教育から日本の良さを「再発見」

質問したところ、フィンランドの学校には校内研究という文化はないそうです。理由を尋ねると、教師になるまでに十分な教育を受けており、教師になったら、各自が研修を深めていくからだそうです。

フィンランドでは、16人～25人の学級規模です。しかし、日本ではほぼ倍近い人数の一斉指導です。多くの子どもたちにいかに興味をもたせ、ねらいを達成するか知恵は日本の教師文化の財産だと感じました。日々授業をし、さらに生活指導や特別活動、部活動の指導までしている日本の教師はすごいと思いました。

課題は数多くある日本の教育現場ですが、これらの財産を再発見できたことが私のフィンランドを訪問しての一番の成果です。🍷

世界 きょういく 見聞録

Vol.9 FROM FINLAND

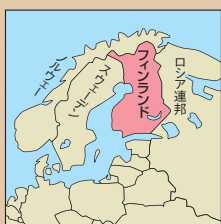


世界には、さまざまな学びのかたちやプロセスがあります。

今回は、フィンランドの教育について、実際の視察を踏まえて紹介します。

フィンランドの教育制度と学校文化

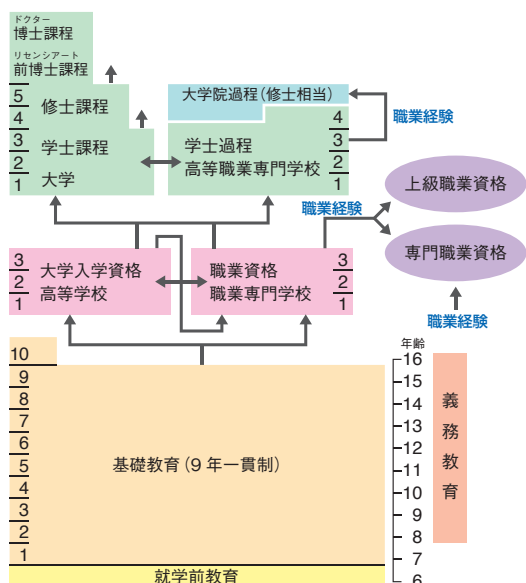
私は、教師生活 18 年の小学校教師です。そんな私がはじめて、海外の学校を見る機会を得ました。フィンランドでは PISA 型読解力で 1 位になってから日本の教育関係者や政治家の視察があとを絶たないそうです。現地で見聞きたことは、日本において「これからこうすべきだ。」と教育を語る人に影響を与えていることが多いのではないのでしょうか。今回、フィンランドで 2 つの公立学校を視察してきました。現場目線でフィンランドの教育制度がどう映ったかをお伝えします。



東京都練馬区立光和小学校 主幹教諭 伊藤 雄一

「落第」のある基礎学校…その理由

フィンランドの教育制度は就学前教育に始まり、7 歳で基礎学校に入学します。基礎学校は 9 年生まで続き、出された評点の成績が不本意な場合など、本人の希望によりもう 1 年間、10 年生として教育を受けるのが特徴的です。教育は授業料が小学校から大学まで無償で提供されます。基礎学校に「落第」があることには驚きましたが、現場を見たときにその理由の一端が見えてきました。



●フィンランドの教育制度

日本では近年、公立の小中一貫校や中高一貫校が増えていきます。フィンランドの基礎学校は、小学部と中学部が分かれている学校もあるそうですが、ほとんど小中が統合されている学校のようなようです。今回私が訪問した 2 つの学校はいずれも統合学校でした。ヘルシンキ大学付属 VIKKI 教師教育学校、AURINKOLAHDEN 総合学校の 2 校です。どちらの学校もフィンランドの首都ヘルシンキの郊外に位置していました。

いずれも小学生から高校生までが同じ校舎で学んでいましたが、ゆったりした自由な感じを受けました。子どもたちを見ると勉強をしている子もいれば、やる気のない姿を見せる子もいましたが、それに対して教師の構えが日本とは少し違うのです。一人一人の学びの歩みを大切に、自立を促しているように私は感じました。

発見① 教育にける予算が日本と違う。

VIKKI 教師教育学校は、歴史のある学校ですが、新築の校舎でした。AURINKOLAHDEN 総合学校は 2002 年に新設された学校でこちらも新築でした。新設校やパイロットスクールは日本にもありますが、そのデザインセンスの良さに驚かされました。



▲前年の11月に行われた盆栽教室のときから育てている自慢のマイ盆栽を手にした5年生たち（現6年生）。樹種は、ヒノキ科の「真柏（しんぱく）」。
ことしの盆栽は2006年の「初代」から数えて「四代目」になります。

埼玉県さいたま市立植竹小学校

ひとり一鉢 自分だけの盆栽 ―受け継がれる郷土の宝―

学区内に国内でも屈指の盆栽郷「大宮盆栽村」を抱える植竹小学校（910名、伊藤道雄校長）。調べ学習などを通して、地域のことを積極的に学んできました。2006年からは、地域の方々の指導・協力を新たに得て「盆栽づくり」に取り組み、5・6年生ひとりひとりが「マイ盆栽」を大切に育てています。



初代（2006年）から育てている校長先生の「マイ盆栽」。さすがの風格。

たくさんの要素が詰まった盆栽教育

「盆栽教育は、まさに総合学習です」と伊藤校長先生。理科、社会科、算数に図工。また、道徳教育にもつながります。「盆栽教室は、『盆栽には正面と裏があるので、まず正面を探しましょう』というところから始まります。いらつしやいませとおじぎをしている、相手に敬意を払っている様子、それが正面だと。そういう精神が宿っていることを実感として学べるんですよ。地域おこしにもなるし、何より自分の育つ郷土に誇りをもつことができます。子どもたちに日本のよきものを長く伝えていきたいですね」。

細やかな心配りが生まれる

年間を通して子どもたちを指導してくださるのは、地域のサークル「ほんさい遊々」のボランティアさんたちです。「子どもたちの観察力はすごいんです。『コケから出ている糸みたいなのは何か?』とか。そこで、これは胞子よ、コケは種じゃなくて胞子で増えるんだよと教えてあげられます。わずかに葉が茶色くなっているのも見逃さないし、すぐ相談に来てくれるのがうれしいですね」と、子どもたちが盆栽をかわいがる姿に目を細めるボランティアの田端フサさん。「手塩にかけた自分の盆栽だから、いっそう愛情をもつこ

1 水遣りは、ボランティアさんの指導のもと、盆栽のコンディションや土・コケの乾きぐあいを細かに観察しながら行います。

2 目の高さで盆栽を眺めます。見えてきたのは、どんな自然の姿かな？



▲盆栽教室で指導してくださったボランティアさんたちへの、子どもからの感謝の手紙。

3 寒さが続くと、葉が茶色になりますが、枯れたわけではなく、盆栽が自分を守るため。植物の生態を実地で学ぶことができます。

4 毎年11月に行われる「盆栽教室」では、植竹小卒業生で盆栽家の山田香織さんの指導のもと、5年生が鉢に土を入れ、苗木を植え、コケを張ります。初めてマイ盆栽と向き合う瞬間です。

5 盆栽教室では、「ぼんさい遊々」のメンバーや保護者のボランティアがきめ細かに指導します。子どもの活動に感銘を受け「ぼんさい遊々」に加わる保護者も。



この春も、6年生は、手塩にかけた自分の盆栽を持って卒業しました。卒業後も、ボランティアさんや保護者のボランティアがきめ細かに指導します。子どもの活動に感銘を受け「ぼんさい遊々」に加わる保護者も。

とができるんでしょうね」。子どもたちの心の変容を語るのは、保高智教頭先生です。「木も生き物であり、日々世話にこたえて変化していくということを、身をもって感じられるんです。細かい作業を年間を通してやりながら、細やかな心配りや、やさしさが生まれていきます。それが、人に対する思いやりにもつながっていくと思います」。

受け継がれてゆく盆栽の心

2010年3月28日には「大宮盆栽美術館」が開館。5月の連休には、盆栽村で「大盆栽まつり」が開催され、毎年、植竹小の子どもたちも出展しています。「地域の宝である盆栽へのかかわりが、小学校だけ、学校教育だけで閉じてしまうのはもったいない。新しい住民や若い保護者にも、子どもたちの活動を通して盆栽に関心をもちてもらえれば」と校長先生は意欲的です。「その一翼を植竹小の卒業生が担えればうれしいですね」。

福島県

大地の恵み、福浦食の楽校^{がっこう}

子どもに育つ郷土愛・深まる世代間交流

◆ 南相馬市立福浦小学校校長

木村 政文

情報発信され、地域の食に対する関心・意識も高まっています。

この高まりが、食育を通して、福浦（浦ざと）地区全体が収穫に感謝し、世代を超えて交流しようという「浦ざと秋のうめえものまつり」の開催につながりました。子どもたちが栽培した餅米や野菜で、餅つきをしたり、芋煮汁、焼きイモを作ったりし、本校を会場に、地域の世代間交流を図る新たな収穫祭を開催しました。このまつりでの「とびっきり笑顔の子どもたちの姿」は、地域の皆さんに活気を与えるとともに、「自分たちの地域は、自分たちで守り育てる」という郷土愛が高まり、誇りや生きがいにつながりました。

これからも、次の世代の親となる子ども一人一人に、食育を視点として、郷土愛、感謝の心、協調性や社会性などを育てまいりたいと考えています。



「農 林水産省消費・安全局長賞、おめでとうございます。」この知らせに、本校の児童や教職員、保護者は、喜びに躍り上がりました。

本校では、食育を学校経営グランドデザインに位置づけ、地域の生産者や食育関係機関と連携して、様々な体験・交流活動を行う「大地の恵み“福浦食の楽校”」の取り組みを推進しています。

その中心となる活動は、自然の恵みを実感し、感謝の心を育む食農体験です。子どもと保護者（父母、祖父母）が水田や畑をフィールドとし、学年ごとに稲、野菜、きのこなどの栽培を行い、その苦労や驚き、感動の体験を通して、子どもたちの感性を磨いています。

また、栽培した食材や地場産品を活用し、花ずし、豆腐、手打ちうどんづくりなどを体験し、安全・安心な食べ物についての意識を高めています。これら活動の様子は、「福浦小 食の楽校通信」を通して家庭・地域にも

東京都

専門家による租税教育

「租税教室」の取り組み

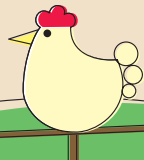
◆ 八王子市教育委員会

よって建てられていることや、税金の制度がないと一般の道路を通るときにもお金を支払うようになることなど、税を身近に感じる話題を交えながら税の役割や仕組みを学んだ。授業を受けた子どもたちからは、「税金は、自分たちの生活にとって大事だ。税金の大切さがよく分かった。」といった租税の重要性を実感する反応があった（写真は市内の小学校で行われた授業の一場面）。

租税教育を今後一層推進することで、すみよい社会を実現するためには税金が重要な役割を果たしていることを知り、税金を支払うことの大切さを理解するとともに、税金の使われ方にも関心を持ち、そこから政治や社会づくりへの関心がもてるようにしていきたい。



南から



八 王子市では、全国に先駆け、平成 17 年 6 月「租税教育推進宣言の街・八王子市」を宣言し、児童・生徒及び成人が、税に関する正しい知識と理解を深める取り組みを行っている。

子どものうちから税について理解することが重要であると考え、小・中学生が、税の仕組みや役割に興味をもって学び、将来の納税者として社会を支える一員となるような租税教育を推進している。具体的には、市と税務署等が連携し、①市長を会長とする関係者による租税教育推進懇談会の開催 ②中学校教員と国税・都税・市税の関係者による授業研究 ③税に関する作文の募集 ④租税教室の開催 などを行っている。

その中の租税教室については、税務署の職員が学校を訪問し、専門的見地から税金についての授業を行っている。平成 21 年度に租税教室を実施した市内の小学校では、税務署の職員から、学校や公共施設などは税金に

香川県

ふるさとを愛し、誇りに思っている 育てるラブリバー学習

◆ 東かがわ市立白鳥小学校校長

佐藤 正文

本校は東かがわ市のほぼ中央部、阿讃の
県境に源を発する湊川の流域に開けた
田・畑が広がる落ち着いた環境の中に位置し
ています。

本校では、地域を教材とした学習を『ラブリ
バー学習』と銘打ち、全学年で地域の素材
を発達段階に応じて教材化し、体験活動を組
み込んだ学習に取り組んでいます。

特に4年生は、総合的な学習の時間に砂糖
づくりの歴史について学習しています。『ふ
るさと・白鳥』の地は、江戸時代、この地で
生まれた向山周慶が、奄美大島からやってき
た関良介とともに協力してサトウキビから砂
糖をつくる技術を広めた地であり、讃岐で最
初に砂糖がつくられた地です。そこで、社会
科との関連を図りながら先人の功績を調べ、
植え付けから刈り取り、来年にむけて種キビ
という形で残すところまでの学習を行い、そ
の後、収穫したサトウキビをしばって砂糖に
してもらっています。この学習は20年以上
も前から続けられており、このことを通して
砂糖づくりの伝統をしっかりと受け継いでい
くとともに、砂糖発祥の地としての誇りを心
に深く刻んでいってほしいと考えています。

また、3年生では「みなと川大発見」とい

うテーマのもと、河原に自生している草を
使った草木染めや水中の生き物調査など湊
川の自然を教材とする学習も進めています。

そして、5年生になると「守っていきたい
、湊川の自然」をテーマに、川にすむ生き
物から水の汚れを調べ、水を汚さない方法を
考えていくなど環境保全活動に取り組んでい
ます。

これからも、地域の中で行う豊かな体験活
動を通して『ふるさと』を愛し、誇りに思う
子どもを育てていきたいと考えています。



INFORMATION

北から

全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

福岡県

自分の思いや願いを英語にのせて 子どもと教師が楽しむ外国語活動

◆ 大牟田市立明治小学校校長

安田 昌則

大牟田市は、福岡県南に位置し有明海に
抱かれた、カルタ発祥のまち、そして
日本のエネルギー産業を支えてきたまちで
す。

本市は、教育特区ではありませんが、通常
の公立小学校における英語活動を平成12年
度から全小学校で取り組み始めて、今年で
10年目を迎えています。

本校は、文部科学省や国立教育政策研究所
の研究協力校として、さらに、大牟田市教育
委員会の研究校として授業や研修を通して、
外国語活動（英語活動）を進めています。

本市・本校の特色である、学級担任が進め
る外国語活動（英語活動）の充実を図るため、
全職員による協働体制で様々な取り組みに努
めています。外国語活動のねらいはコミュニ
ケーション能力の素地を養うことです。その
ために、子どもたちが、自分の気持ちや願い
等を簡単な言葉で表現する楽しさを味わわせ
たり、伝え合う喜びを味わわせたりすること
を大切にしています。そこで、各学年の実態
に応じながら、「英語ノート」や電子黒板、
いろいろな教材教具を活用しながら学習活動
の工夫を行っているところです（写真は英語
と食育を絡めた授業の様子）。



本校の職員室では、誰かが外国語活動（英
語活動）の教材教具を作っていると学年を超
えて協力したり、アイデアを出し合ったりし
ている姿がよく見られます。教職員も楽しく
外国語活動（英語活動）に取り組んでいます。

だからこそ、子どもたちも意欲的に活動し
ていると思われます。全国からたくさんの先
生方の視察がありますが、今後も、子どもた
ちが自分の思いや願いを英語にのせていける
ように、活動の充実に努め、子どもと教師が
楽しんでいる姿を公開したいと思います。

地球となかよし ゼミナール

子どもたちのメッセージに学ぶ

教育に関するキーワードをクローズアップする「地球となかよしゼミナール」。
「地球となかよしメッセージ」に寄せられた子どもたちの思いは、
さまざまな問題を考えるきっかけになります。
今回は、2009年の応募作品から、学校での「省エネ」を考えます。

学校における省エネルギー — 学校の光熱水費から考える —



聖徳大学講師
宮田 進



水の小さなさいり用

- 大下 稜介
東京都府中市立府中第六小学校3年
- 家づくにもできるエコ
- ・お風呂の水はさいりようでセンタクキの水にもつかえるようになる。
 - ・米のとぎ汁で皿の油をとるのがかんたんになる！
- ばくにもできるエコ
- ・米のとぎ汁はしょくぶつの水やりにも使える。
 - ・お風呂の水はふきそうじにも使える。



みどりの学校

- 白岩 啓太
東京都北区立堀船小学校4年
- ばくの通う学校は、「みどりの学校」だ。
それは、みどりの芝生・みどりのカーテンがあるから。
- 芝生の上を走り回るのは、とても気持ちがいいよ。転んでも、あまりいたくない。芝生にいる「バッタ」とりも、楽しいよ。
- みどりのカーテンは、暑い太陽の日ざしをさえぎってくれて、ばくたちのいる教室をすずしくしてくれる。
- しかも、「キュウリ」や「ヘチマ」もとれるすごいカーテンだ。今年の夏休みは、ヘチマの観察もできた。
- ばくは、このみどりの学校が大好きだ。もっと、たくさんみどりの学校がふえるといいな。

「資源をむだづかいしない」「限りあるエネルギーを大切にしよう」。社会での環境意識の高まる中、子どもたちがエコロジーな生活を心がける場面がふえてきました。ところで、学校で消費するエネルギーについて、皆さんはどのような認識をもっているでしょうか。

例えば、プール1杯の水の料金はいくらかなのか、考えたことはありますか？ 水道料金は地域によって異なりますが、例を挙げると、首都圏の学校ではプール1杯50万円前後。内訳は、プールに入る時の上水道が約35万円、プールから下水道に流すと約15万円かかるのが普通です。

ある小学校で、1・2時間目はまだ体の小さい2年生が利用するため、プールの水を3分の2に減水しました。3・4時間目は、体の大きい6年生の利用なので、プールの水を満水にしました。午後からは、プールの水を2分の1に減水し、1年生が利用しました。このように、プールの開栓や閉栓は、学習時間割に忠実に実施されているのですが、この小学校は、水泳指導に1シーズン、どれだけのエネルギーや費用がむだにかかっているのか、意識したことがなかったのではないかと思います。

「なかよしメッセージ」の作品を見ると、子どもたちのほうが、省エネや環境問題に対する感受性

は強いことがよくわかります。大下稜介さんの家庭では、水の再利用が大変よく工夫されていますね。水道水は大切なエネルギーであることがしっかりと認識されています。家族が協力して省エネを実践することで、お互いの絆も強くなつて、環境問題についてもたくさん話し合いができています。

白岩啓太さんの通う堀船小学校では、立派な緑のカーテンができています。エアコンに頼らなくてもよいよう、暑い日の室温を下げてくれる、このカーテンを育てるための水まきにも、きつと水が有効に活用されるような工夫があったことでしょう。学校全体の、省

エネに対する意識が高まっているのですね。

多くの学校では、光熱水費は教育委員会が一括して支払うので、「料金がかかっている」との意識が薄くなっている現状があるのではないかと思えます。家庭や企業などでは、省エネにより、環境を守るという大きな目的の他、経費削減につながるということで、取り組みが活発になるという面もあるでしょう。環境を守ろう、という意識を理念から高めることもたいへん大切なことですが、学校でのエネルギーの使い方を「経費」という側面から見直してみること、省エネにとつてはとて有効なことではないかと思えます。

新学年 ゆっくりやろうね



香山 リカ
(精神科医・立教大学教授)

子どもにとって、春は楽しい季節。……と思って
いるのは、おとなだけ。子どもにとっては、新入学、
新学年が始まる春は、不安の季節でもある。

何といってもいちばん気になるのは、新しいクラ
スにいるのがどんな人たちか、ということだ。私自
身、中学に入学したのははるか昔の話なのに、教室
に入って小学校時代の友だちの顔を見つけたときに
「ああ、よかった、この子といっしょなんだ!」と
心からほっとしたこと、そして同時に小学校時代、
ちょっと苦手だった子やほかの小学校から来たまっ
たく知らない子の顔を見て、気持ちが重くなったこ
とを、まだありありと覚えている。

もちろん、新学期が始まって1カ月もすれば、
それなりに新しいクラスや担任の教師にもなれ、
「これがあたりまえ」という気分になっていく。し
かし中には、やっぱり新しいクラスや生活になれ
ることができず、5月頃になると不安、緊張から
どっと疲れを感じる子どもも出てくる。これがい
わゆる「子どもの5月病」なのだろう。大学生や
新入社員の5月病は、受験や就職活動が成功して
気が抜けたときにやって来るが、子どもの場合、



イラスト ひらた ゆうこ
<http://kore.mitene.or.jp/twins7yh/>

このように緊張がたまりにたまった結果として、
からだのだるさ、腹痛や頭痛、微熱、食欲低下な
どが起きるのが特徴だ。

「なんだかおなかが痛い」「熱っぽい」とはっきり
した風邪や胃腸炎ではなさそうなのに、からだのサ
インを訴える子には要注意。体温計で熱だけはかっ
て、「36度5分、はい、だいじょうぶ!」と励まし
ても、それだけでは元気は回復しない。

とくに進入学やクラス替えで新しい生活が始まっ
た子どもの場合、5月の連休にはちょっと学校から
気持ちをそらして、家族や元の友だちと思いきり楽
しい時間をすごすことも必要かもしれない。新しい
学校になれさせようとするあまり、前のクラスの友
だちに会うことをひかえさせようとするおとなもい
るが、無理やり引き離すのはよくない。最初のうち
は“昔の仲間”に再会して、心からリラックスする
時間も大切にしたいほうがよい。

子どもが5月ころ、ちょっと元気がなくなって、
疲れたような顔をしているときは、にっこり笑って
「まあ、ゆっくりやろうね」。こう言葉をかける心の
余裕が、おとなにも必要だ。

作品募集

地球となかよしメッセージ2010

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

◎主催／教育出版 ◎協賛／日本環境教育学会
◎後援(予定)／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
※こどもエコクラブのパートナーシッププログラムです。
※2009年度の作品集についてのお問い合わせは Educo編集部(03-3238-6982)へ。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

「地球となかよし」
事務局



教育出版

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



入賞作品は Educo2011 年冬号(2011年1月発行予定)で発表します!

ほっとな 出会い

舞踊家・振付師

近藤
こんどう

良平さん
りょうへい

●「からだ気づき」がダンスの原点

大学は教育学部の教員養成課程だったんですが、ダンスに目覚めたきっかけは、舞踊の授業の中の「からだ気づき」です。握手とか、相手の目を見るとき、目をつぶって人の気配を感じるといったことをたくさんやりました。動きで表現するという以前の、何か感じたことをそのまま大切に、自分の体と対話する。そこから、表現したいという欲求、相手とどうかかわるかという思いが生まれる。このことに、すごい感銘を受けたんです。

若いときって、自分がどう見られるか、カッコつけたい、自分のことしか考えられない、みたいなものがあるでしょう。そんなときに、「からだ気づき」で、今いる自分と相手をただ感じるという経験をした。ああ、なんでこれをもっと早く知ることができなかったのかと本当に思いましたよ。

●体を解放しよう！

僕は、子どもたち向けのワークショップもやるんですが、そのときには、取っ組み合いをしてほしい。相手に直接触って、体を揺らし合ったりする。心と体を思いっきり解放しよう、と。やらかしていいわけですよ。好きなだけやらか

すことで、どこまでやっていいのかわかるんです。本当に危ないときには、僕がちゃんとめますからね。やり合っているうちに相手の体の動きを感じるができる。こういうことまでやったら相手は痛がるのかな、これをやったら人は笑うんだとか、自分は人より瞬発力があるとかに気づくんですよ。

ただ、今の子どもたちは、体を動かして何かするということを知らないなと感じています。体を使わないのが当たり前の世界で生きているんだから。それはどう考えても大人の責任でしょうね。だから、大人が、身をはって一緒に体験しようとしないうちは、子どもは体験できない。どんな人でも何かあるから、魚釣りでもどじょうすくいでも（笑）、大人は、気負うことなく自分の体験を見せてほしいな。

体を動かすのが苦手な子って、体が硬いとか、足が遅いとか、自分に対してネガティブなイメージがあるでしょう。でも、考え次第というか、体の使い方次第だと思うんです。体が硬くても、おもしろい動きはできるし、走るのが遅いなら、スローモーションで、とってもきれ

いな動きを表現できるかもしれない。きれいな動きだと人は感動するでしょう。自分の体を自由な発想で見えてほしいですね。

●先に見えることより 見えないことのほうがいい

近ごろの若者たちは、不景気な世の中に対して、10人中7、8人ぐらいは、しょうがないよ、この時代だから、と思っちゃっている気がするんですよ。先が見えないからと不安をもっているんですが、その仕組みはどうなっているのかとか、じゃあどうしようかとする力が弱い気がするなあ。自分の置かれた状況だけがすべてじゃないってことを、若いうちにもっと知っておくほうがいいと思うんですよ。若くて体力も頭の柔軟性もあるはずなのに、今の状況に安住して、抜け出そうとしない感じがしますね。

小さい子どもは、人に会うことも楽しければ自然物も楽しい。しゃべるのも、ふれあうのも、ころがるのも楽しい。すぐきらきらしている。でも、大きくなるほど、どんどんそのきらきらした値が減っていく。年齢が上がるにつれて、小さい世界に閉じこもるという流れを感じるんです。個人個人になればまた違うと思うんですけど、多くいる中に埋もれたがるというか。僕は全く埋もれたくないんですけど（笑）。僕は、先に見えることより見えないことのほうがおもしろい、と思っているんです。もっと広い世界に目を向けてほしいですね。

PROFILE

1968年東京都生まれ。ペルー・チリ・アルゼンチンで育つ。横浜国立大学教育学部卒業。男性だけのダンス集団「コンドルズ」を主宰。第4回朝日舞台芸術賞・寺山修司賞を受賞。NHK教育テレビ『あさだ！からだ！』、同総合テレビ『サライーマン・NEO』に出演、幅広い年代層に人気を博す。横浜国立大学・立教大学の非常勤講師も務める。

Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

◆金田一秀穂先生の「いつも明るく朗らかにしていることが子どもたちへの礼儀」には、ギョッと胸をつかまれたよう。先生がおっしゃるように、「教えていることが楽しい」と思う教師が増えてほしいと強く願うところです。（北海道 武田隆雄）◆香山リカさんの「現実から、目をそらしてもいい」。苦しいときには「心の視野」を広げてあげることが必要であることを痛感しました。「ちょっと物語の世界に目をそらしてみたら？」の一言に示唆を与えられました。（茨城県 R・K）◆知っておきたい教育NOW「若手教員に熱く期待して」。「若手塾」などの自主的研修会推進の具体策に感銘を受けました。実践の場をおして若手教員に積極的にかわり、手を取って教えていく学校体制の必要性を強く感じました。（北海道 瀬波金直）

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。